

加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会
第5回ワーキンググループ 次第

日時：令和6年2月20日（火）14時～

場所：加茂市役所3階 301・302 会議室

1. 議事説明 / 14:00～14:05 事務局
2. 第3回準備協議会での協議及び意見交換内容の報告 / 14:05～14:20 事務局
 - ・資料1 及び別添議事要旨
3. 令和5年度の実施のまとめと令和6年度へ向けて / 14:20～14:50 事務局
 - ・資料2
4. エリアプラットフォームの運営体制について / 14:50～15:10 萩野委員及び事務局
 - ・新潟市の実施状況に関する資料
 - ・加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム規約(案)
5. 質疑応答及び意見交換 / 15:10～15:50
6. 事務連絡 / 15:50～16:00
 - 第4回エリアプラットフォーム準備協議会：令和6年3月13日（水）14時～
 - ※会場は、本日同様加茂市役所3階会議室です
7. 閉会



第3回協議会の開催報告

令和6年2月20日

第5回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング

【未来ビジョン】 懐かしさとあたらしさが交じり紡いで、まちの心地よさをかもすまち

市民の記憶が刻まれた懐かしい面影を残す街並や風景と、時代の変化に対応した新しいニーズや価値観を融合させることで、賑わいや交流、消費など、まちの価値を生み出し、市民がまちなかで暮らし、働き、過ごす時間を、最高の日常に仕立てる。

エリアビジョン

まち （商店街）

◆加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

買い物など生活やコミュニティを支えるまちなかの主骨格として、日常的な人と人とのコミュニケーションを強みに、多世代が気軽に立ち寄れる“令和における生活商店街”を再構築する。

みず （加茂川）

◆みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

水辺の多様な使い方が共存できる滞在環境の向上を図るとともに、四季の変化や人との出会い、楽しみの発見がある交流空間としての活用を促進する。

みどり （加茂山）

◆自然の恵みと神秘を身近に体験できる”まちの裏山”

自然と歴史が一体となった風格のある緑と、まちなかにいることを忘れてしまうような環境を生かし、潤いやホスピタリティを感じられる空間としての質の向上を図る。

つながり

◆まちなかの魅力が紡ぎだす”One Day Story “

市民の“おもてなし力”でまち、みず、みどりの魅力を磨きつつ、それらの一体感を醸成することで、暮らしや体験の価値が持続的に高まり、とっておきの一日が過ごせる仕組みをつくる。

エリアビジョン

まち (商店街)

加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

みず (加茂川)

みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

みどり (加茂山)

自然の恵みと神秘を身近に体験できる”まちの裏山”

つながり

まちなかの魅力が紡ぎだす”One Day Story “

実現に向けたポイント

- 加茂のショーケースとなるような飲食や物販店舗（特産品含む）の拡充
- 日常的な買い物のしやすさの向上（交通利便性や店舗でのサービス）
- 広場や公園、子どもたちが安心して遊べる空間など、人がいる日常風景を生み出す居場所づくり
- 人中心の歩きやすいまちづくり（歩行者天国、車の速度抑制等）


- 河川活用による新たなイベントの実施（鯉のぼりだけじゃないオールシーズンのイベント開催）
- 河川空間の利活用の推進（ルールづくり、情報発信も含む）
- 多様な利用が共存できるゾーニング的な利用エリアの設定
- 滞在環境の充実（ベンチ、日よけ、飲食サービス等）

- おもてなし、おでむかえなどホスピタリティのある景観形成
- 施設等の利用がわかりやすい案内、情報発信の充実
- 参拝後等に落ち着ける、憩いや佇み環境の充実
- 生物多様性や自然体験など環境学習の場・機会の充実

- まち・みず・みどりをつなぐ仕掛けづくり（商店街⇄加茂川⇄加茂山の間で人の流れを生み出すイベント、動線整備、情報発信等）
- おもてなし空間の形成（美化清掃、加茂らしい景観&風景形成）
- 市民のまちづくりやチャレンジ活動の場・機会を提供する仕組みづくり
- まちづくりの新たな担い手育成の仕組みづくり（まちづくり塾等）

まち（商店街）について

WGでの議論

<p>具体イメージ ／ポイントに 関する議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 近隣地区住民がふらっと行きたくなる商店街になると良い。 • 多世代向けの色々な居場所があると、賑わいが生まれる。 • 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主とのコミュニケーション」である。 • 生活者のニーズに対応できるよう店舗や生活サービスを充実させる。また、回遊を生む上では飲食店（食べ歩き）が不足している。郊外のスーパー等との差別化を考える必要がある。 • 空き店舗が有効に利用され、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝が進むような仕組みが重要でる。 • 商店街全体が加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」になると良い。 • 具体的な取組としては商店街全体を「道の駅」とすることが有効である。市外の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」にしたい。 • 歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、高齢者がバスでアクセスしやすい交通環境をつくることが重要である。
<p>シーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> • まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用して便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 • 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 • 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 • 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 • が買うことができ、市外の友人を連れてきた。 
<p>参考</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街が道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」） • 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 • 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 • 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

みず（加茂川）について

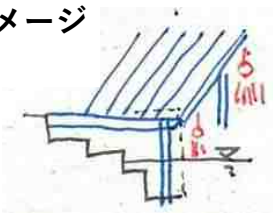
WGでの議論

具体イメージ
／ポイントに
関する議論

- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、**老若男女、多くの市民が日常的に利用**する空間を目指す。
- **季節感（春夏秋）**を感じることができ、**気軽に繰り返し訪れたいリビング**のようなを目指す。
- **多様な利用ニーズを共存**させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をする**ゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす**。
- 滞在する上で、**夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須**ある（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。
- 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で**飲食を楽しめる場を提供**する。
- やすらぎ堤や**川床（小京都のイメージ）**を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。
- **オールシーズン型**のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。
▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。
- **ルールを守ることを前提**に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。



■川床イメージ



シーン

- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。
- スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。
- 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。
- 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。

参考

- 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。
⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。
- 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。
- 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。
【38ページ、40ページ参照】
- 現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

みどり（加茂山）について

WGでの議論

<p>具体イメージ／ポイントに関する議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山公園の特徴は、まちなかにありながら自然の真っ只中にいるような環境であり、自然を前面に打ち出すことが有効である。子どもたちが遊びながら自然を学ぶことができるようではどうか（プレーパーク等）。 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。 加茂山は身近な里山的な存在であり、まちなかにこのような「癒し」のエリアがあるのは売りになる。 「癒し」の要素は、神秘、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。 加茂山公園には、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力、潤いを感じられる場所である。 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのか案内等情報が不足している。各施設への案内や誘導路を充実するほか、総合的にホスピタリティを高める必要がある。 青梅神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる静かな賑わいが生まれるとよい。 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、景観的に優れているので、もっと活かすことが重要である。 	
<p>シーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。 	
<p>参考</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況があるため、市民の利用を促進する必要がある。 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況になる。 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。 	

つながりについて

WGでの議論

具体イメージ
/ポイントに
関する議論

- **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメント**をつくることが重要。
- 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- 一部区間（加茂山⇄商店街⇄加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える。**
- 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えるとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- まちの美化清掃活用や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。



シーン

- 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。
- 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇄まち（商店街）⇄みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。

参考

- 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。

エリアビジョンに基づく将来イメージ

第3回協議会で提示した内容 (参考用)

- 【みず】 みんなでお気に入りの過ごし方が共有できる水辺のパブリック・リビング

- 【まち】 加茂の「いいね！」がまるごと詰まったまちのぷらっとHOME

多世代が気軽に立ち寄れる
“令和における生活商店街”
の再構築

- 【つながり】 まちなかの魅力が紡ぎだす
"One Day Story"

市民の“おもてなし力”でまち、
みず、みどりの魅力磨き

まち、みず、みどりの一体感の醸成
山で遊び ⇒ まちで休み／買い物し ⇒ 川で憩う

多様な使い方が共存できる滞在環境
の向上

四季の変化や人との出会い、楽しみ
の発見がある交流空間としての活用
鯉のぼり

川床

プロジェクション
マッピング

- 【みどり】 自然の恵みと神秘を
身近に体験できる“まちの裏山”

潤いやホスピタリティを感じられる
空間としての質の向上



第3回協議会での意見を踏まえた対応（案）

【未来ビジョンとして確定する前の案について】…次年度対応

- 未来ビジョンとして確定する前の案の公表は、未来ビジョンの検討の進捗（わかりやすい成果がまとまった段階）を踏まえて次年度検討

（主な意見）

- ビジョンとして確定する前の案を市民や企業にどのように見せていくのか。
- 一方、骨子だけを見せると混乱するかも知れない。

【未来ビジョンのキャッチコピー等について】…再検討した事務局案を本日のWGで提示

- ビジョンとしての総体を捉える表現と、キャッチコピーとしてメッセージを伝える表現は異なるものであることを念頭に再検討

（主な意見）

- 加茂も「何かやるよね」というメッセージを打ち出すことが必要。
- 参加・協力してくれる企業やプレイヤーが加茂に来てみたいと思う見せ方が必要。
- 対外的な発信と加茂市民への発信は、それぞれ分けて考えることが必要。

【具体的な取組の検討について】…次年度対応

- 「エリアビジョン」（2ページ）及び「実現に向けたポイント」（3ページ）を基に、具体的な取組をとりまめながら、内容を充実
- 具体的な取組が概ね整理された段階で、改めて「エリアビジョン」及び「実現に向けたポイント」と照らし合わせ、必要に応じて見直し

（主な意見）

- 今後、ポイントとなる事業を見極めることが重要。
- 誰がいつやるのか、長期か短期かといった仕組みについて、深めることが必要。
- ビジョンの実現に向けた主要なプロジェクトを発信。
- 議論は、行ったり来たりしても良く、具体的な取組の議論が進んだ段階でビジョンを見直し



令和5年度の検討のまとめ

1	検討の背景と目的	2
2	対象エリア	3
3	検討の経過	4
4	エリア内の強み・弱み・機会・脅威	8
5	まちなかエリアの現状	9
6	現状・課題に関するWGでの意見交換結果	17
7	エリアの課題	19
8	ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果	20
9	未来ビジョンの再構成（案）	25

令和6年2月20日

第5回 加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング

1 検討の背景と目的

(1) 背景

- R3加茂市総合計画にて「人が集い、賑わいと活力があふれ稼ぐ力と雇用を生み出すまち」を目指すための方策として**加茂駅周辺のまちなかエリアの市街地活性化**が明示。
- 加茂市全体の活力をけん引していく**最も重要な拠点**として位置づけられるべきエリア
- エリア内での様々な主体の取組が個々にではなく、それらの連携によるエリアの価値向上が必要

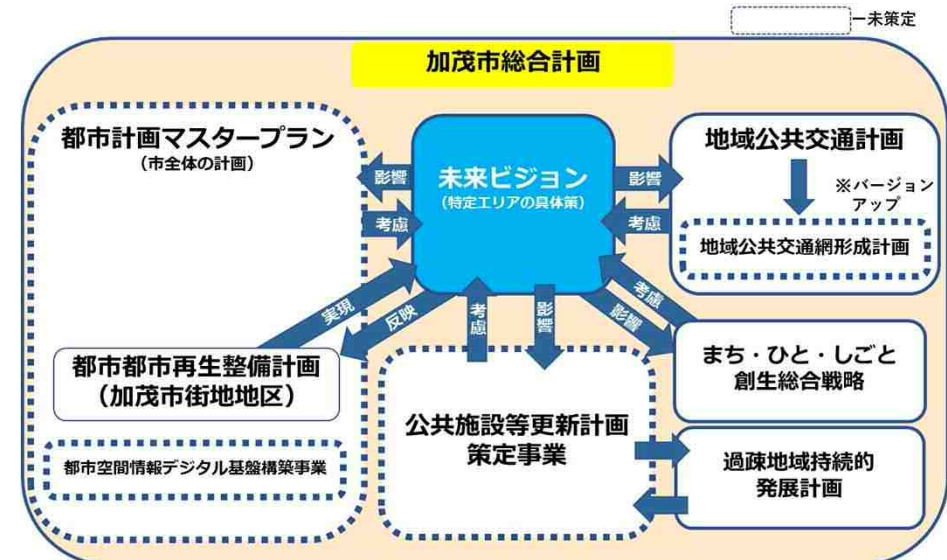
- エリア内の課題解決や賑わい創出の取組を戦略的・継続的に推進するため、官民の垣根を超えた様々な主体が参画する枠組み（**エリアプラットフォーム**）を構築
- 官民を問わない様々な主体が将来像を共有し、その実現に向け官民連携で取り組む「**未来ビジョン**」を策定

(2) 目的

- 「**エリアプラットフォーム**」を構築し、多様な主体が同じ方向でまちづくりを進めるため「**未来ビジョン**」を策定。

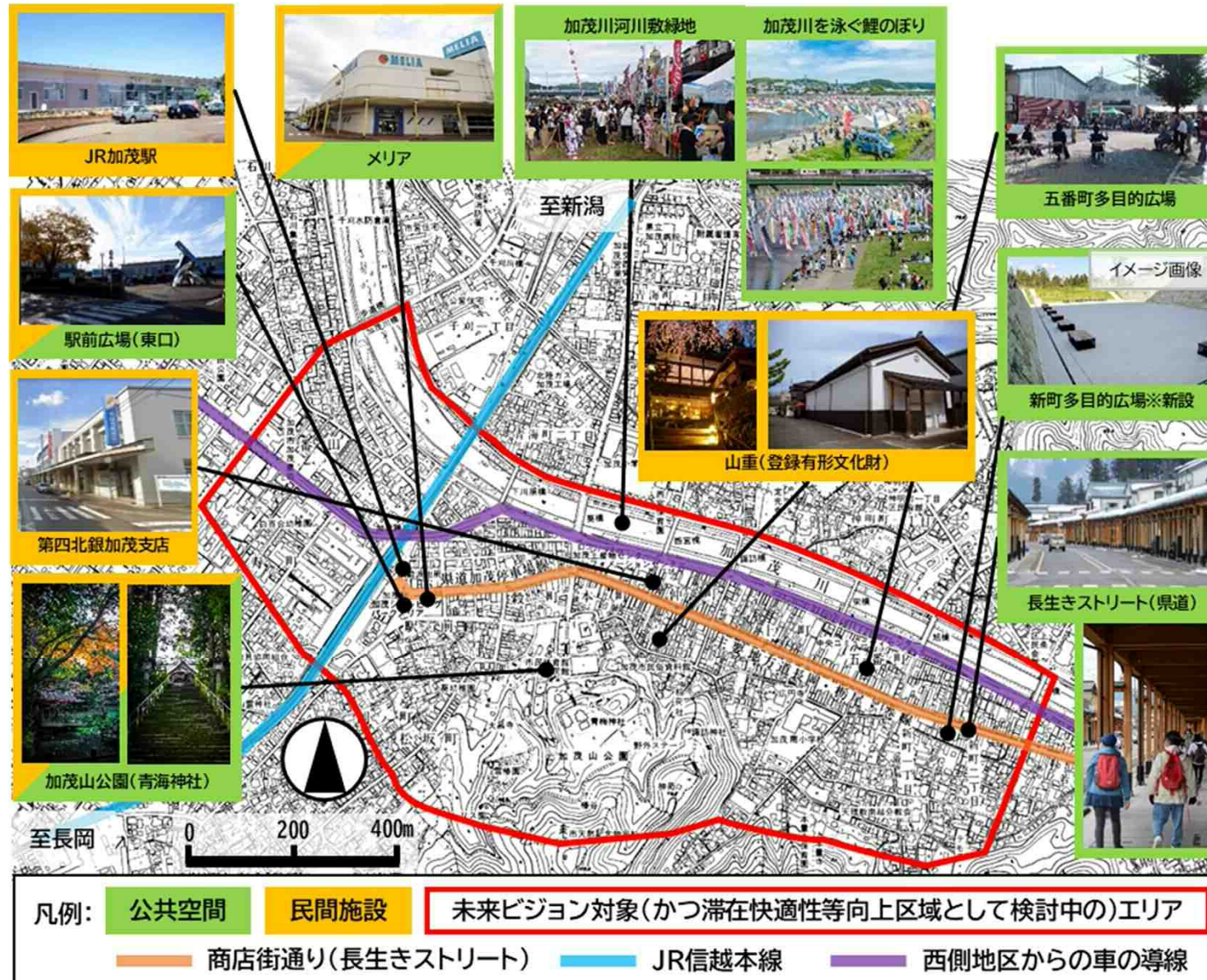
- **未来ビジョンの実現に向け、エリアプラットフォームが方向性の舵取りを担い、多様な主体による相互連携を促すことで、持続的に賑わいと活力あふれるエリアを推進**

(3) 未来ビジョンの位置付け



2 対象エリア

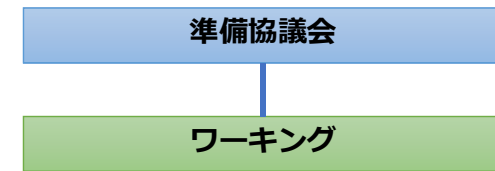
- 加茂川と加茂山公園を含む、JR加茂駅から東に約1kmにわたる商店街を中心としたエリア



3 検討の経過

①概要

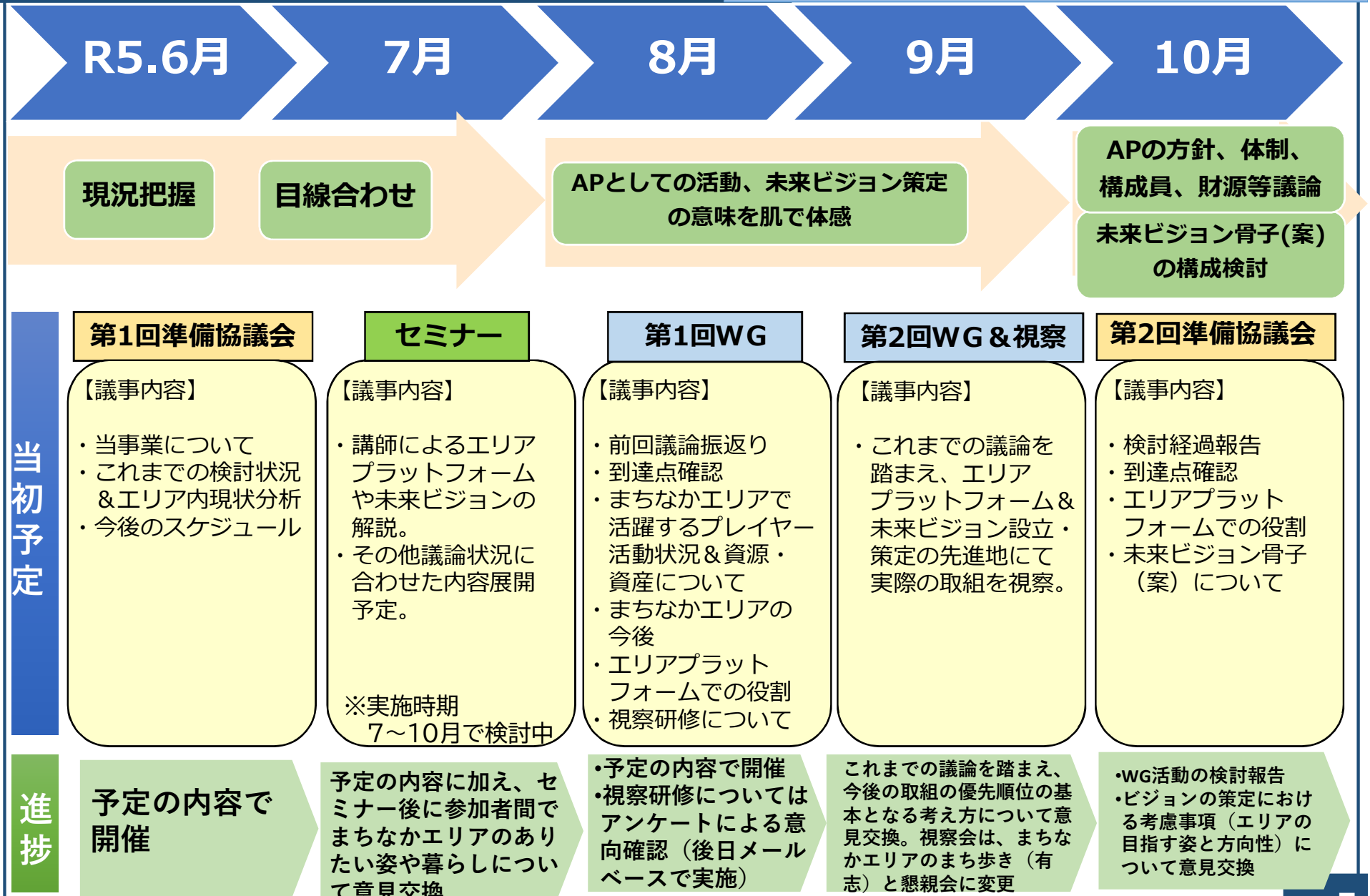
- 「加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会」（以下「準備協議会」）を設置するとともに、協議会の下に「加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォームワーキング」（以下「ワーキング」）を設置。
- ワーキングでは、検討を進める上で必要な知見等を共有するセミナーを開催した上で、対象エリアの課題、将来像等について意見交換し、検討成果を準備協議会に報告。
- 準備協議会はワーキングの検討成果に対して、更なる検討のための視点等を提示し、それらを踏まえて、ワーキングで更に検討。



	準備協議会	ワーキング
令和5年6月28日	第1回準備協議会	
令和5年8月8日		セミナー開催（講師：萩野委員）
令和5年8月29日		第1回ワーキング
令和5年10月2日		第2回ワーキング
令和5年10月30日	第2回準備協議会	
令和5年11月20日		第3回ワーキング
令和5年12月7日 ～12月12日		ワーキングを3グループに分け、各グループで個別会議
令和5年12月18日		第4回ワーキング
令和6年1月16日	第3回準備協議会	
令和6年2月20日		第5回ワーキング
令和6年3月	第4回準備協議会（予定）	

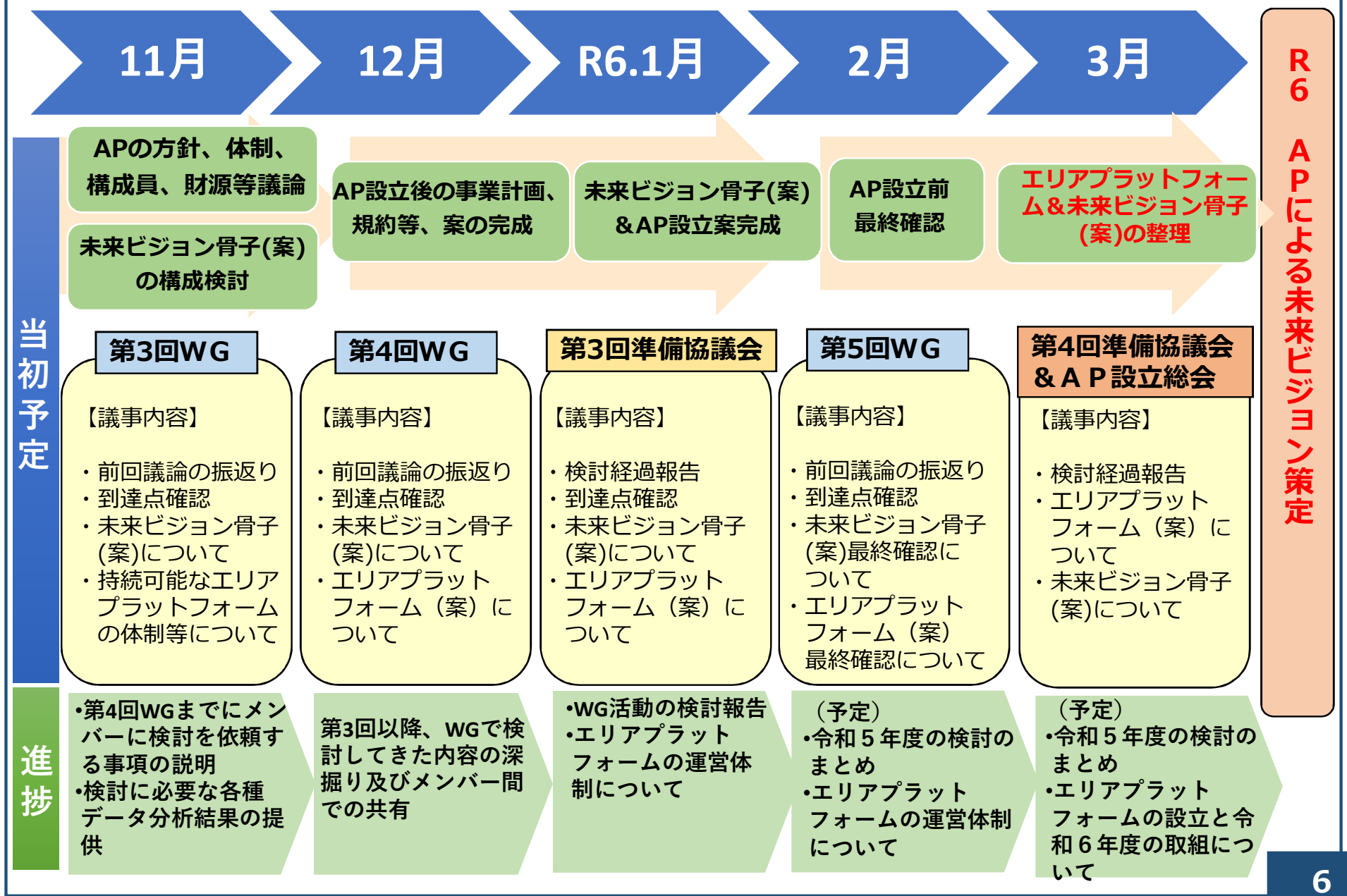
3 検討の経過

②進捗状況



3 検討の経過

②進捗状況



当初予定

進捗

R6 APによる未来ビジョン策定

【エリアプラットフォームについて】

■今年度の検討予定の変更

- エリアプラットフォームについては、第3回WG（令和5年11月）の「持続可能なエリアプラットフォームの体制等について」から検討を始める予定であった。
- しかし、未来ビジョンが検討途上（令和6年度完成予定）である中、まちなかエリアの将来像や具体的な取組が共有されていない状態で、エリアプラットフォームの体制を切り出して議論することは難しく、むしろまちなかエリアの将来像（キャッチフレーズ等含む）について深掘りすることが重要と判断した。

■次年度以降の予定

第1ステップ

- 令和5年度中にエリアプラットフォームを設立
⇒ミッション：未来ビジョンの完成（令和6年度前半までを予定）
⇒協議会の運営等の事務局機能は行政が担う

第2ステップ

- 未来ビジョンの完成以降（令和6年度後半予定）は、将来像や今後取り組むべき具体的な内容（取組の優先順位や役割分担等含む）が共有されることから、エリアプラットフォームの運営体制等についても再度検討が必要
⇒意思決定や新たなメンバーの参加等の運営ルール
⇒運営に活動資金が必要であれば、そうした資金の確保方法
⇒協議会の運営について誰が主体となるのかの検討 など

《エリアプラットフォームを実際に運営する中で体制を適宜充実しながら進化》

4 エリア内の強み・弱み・機会・脅威

エリアの現状

強み

- ・ コンパクトで歩きやすい環境
(全天候型ウォークアブル空間の商店街、商店街～加茂山～加茂川)
- ・ ゆったり、ゆったりとした、ホッとできる都市環境
- ・ 人口比に対する駅利用者数が多い(高校生等若者)
- ・ 賑わい創出に活用できる歴史的文化財が点在
(青海神社、歴史的建築物、谷通り：懐かしい雰囲気のある街並み等)
- ・ 商店街は個性的な店舗があり、スーパーや医療施設等の日常生活を支える都市機能が集積
- ・ 魅力的で癒しのオープンスペースである加茂川、加茂山
など

弱み

- ・ ヒトの滞留や回遊が生まれにくく、賑わい創出や消費活動に結びつかない。
(例:駅利用者が商店街を利用しない、若い世代の加茂の良さが知られていない、若者の居場所が不足、まちなかの情報が発信されていない、鉄道で駅の東西が分断等)
- ・ 観光客のピーク時に、それを活かす環境ができていない。
(例:宿泊施設、駐車場の不足・認識しにくい、加茂の名物を購入できる店舗等)
- ・ 商店街空間らしいデザイン配慮不足
- ・ バリアフリー化できてない駅舎
- ・ 加茂山公園は家族のお出かけ場として魅力不足
- ・ 子ども連れで過ごせる場所が不足
- ・ 駐車場が使いにくい(狭い)、わかりにくい

社会情勢の変化や新たなニーズ

機会

- ・ コロナ禍での社会変容
(例:屋外利用価値向上、リモートワーク、DX等)
- ・ 移住、二拠点居住トレンド
- ・ 地方創生ブーム
- ・ インバウンド、国内観光需要の復活
- ・ 地域の日常を楽しむ暮らし観光
- ・ 高齢化を背景とした歩いてく暮らしをまちづくり、健康まちづくりへのニーズ
など

脅威

- ・ 高齢化・人口減少、世帯減少
→ 店舗廃業リスク
→ 空き家・空き店舗・空きスペースなど既存ストックの遊休化
- ・ 単身高齢世帯(孤独な高齢者)の増加
- ・ 若い世代の転出超過の継続
- ・ 施設の老朽化
- ・ 小売業の販売方法変化(高齢店主ではECやDX対応が難しい)
- ・ オーバーツーリズムへの懸念
など

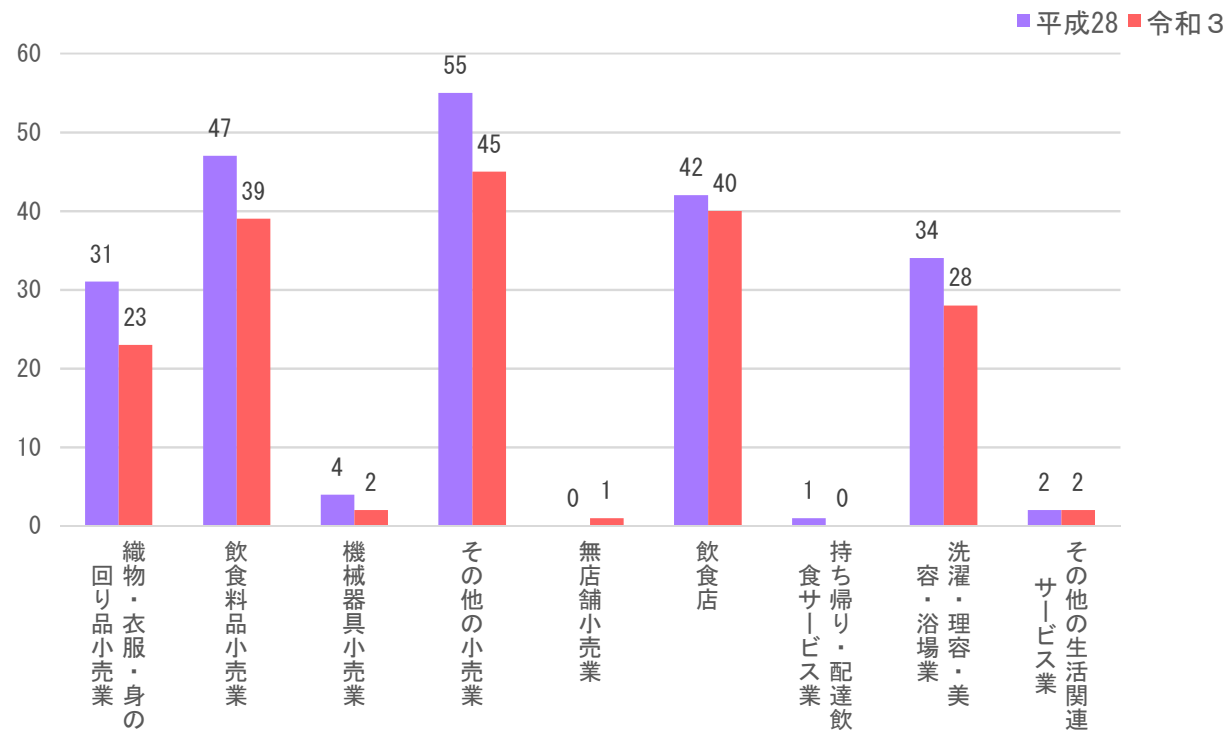
5 まちなかエリアの現状

①商店街の業種構成の変化

- 過去5年間で飲食店は2店舗の減少に留まっているが、日用品である飲食料品小売業及び買い回り品である織物・衣服・身の回り品小売業は8店舗減少。
⇒ 日常を支える機能の衰退は、**更なるまちの価値の低下**を引き起こす。

■ まちなかエリアの商業・サービス関連の業種構成

(店)



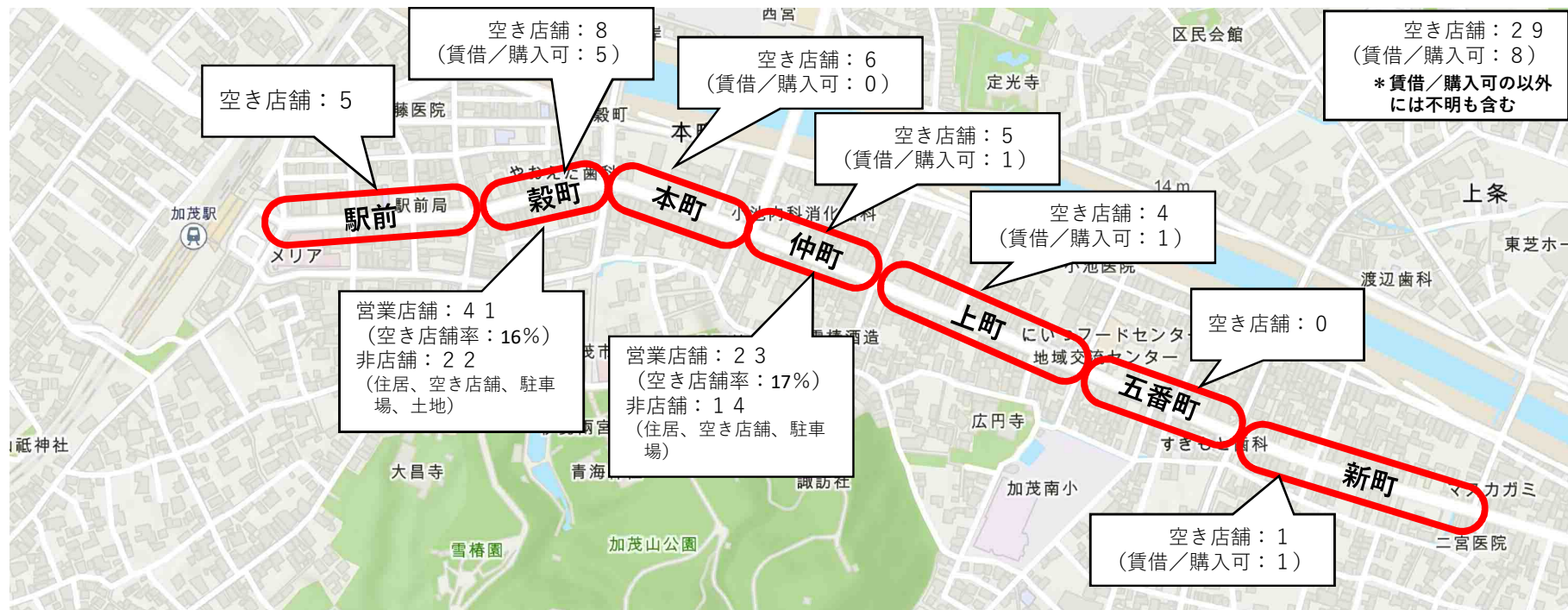
※五番町、駅前、穀町、上町、新町1・2丁目、仲町、本町の値を集計

5 まちなかエリアの現状

②商店街の空き店舗の状況

- 空き店舗（29店舗）のうち賃借／購入可は8店舗。
- 住居等の非店舗化も進行。
- 空き店舗に対しては「加茂市空き店舗対策事業費補助金」により有効活用を支援。
⇒空き店舗の有効活用に向けた**物理的・心理的ハードルを解消**することが重要。

■商店街の空き店舗の状況



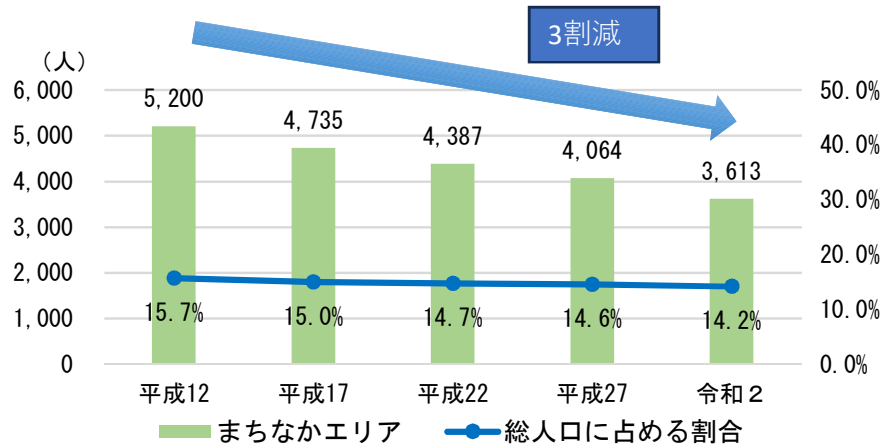
出典：「商店街空き店舗調査」（令和5年4月1日）を基に作成

5 まちなかエリアの現状

③まちなかの人口の推移

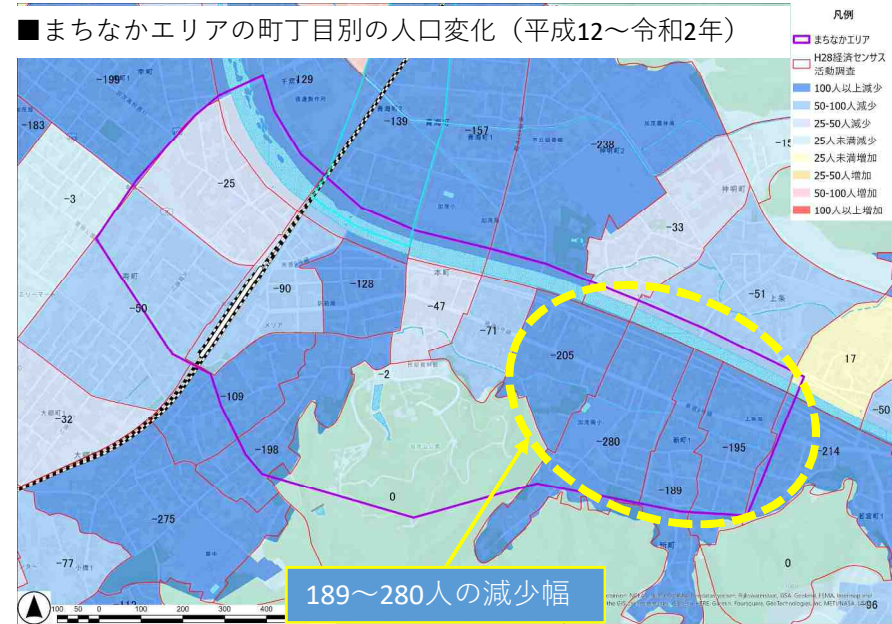
- 過去20年間でまちなかエリアは人口が3割減、上町、五番町、新町1・2丁目は4割減。
⇒道路整備などこれまで投資してきた**既存ストック**が**生かされていない**。
- まちなかエリアの人口の5年前の居住地を見ると1割が転居人口（エリア外からの転入）。

■ まちなかエリアの人口推移

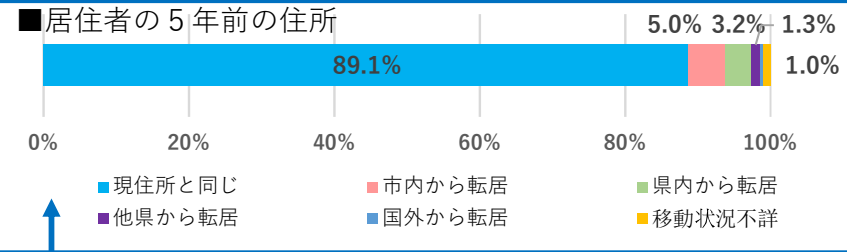


町丁目	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2/平12	令2-平27
本町	150	131	120	110	103	-31.3%	-47
仲町	275	262	228	219	204	-25.8%	-71
上町	500	445	396	337	295	-41.0%	-205
五番町	699	582	527	471	419	-40.1%	-280
新町一丁目	484	441	416	363	295	-39.0%	-189
新町二丁目	432	401	351	293	237	-45.1%	-195
穀町	365	343	305	274	237	-35.1%	-128
駅前	271	212	224	189	181	-33.2%	-90
番田	405	373	404	405	380	-6.2%	-25
寿町	774	759	744	785	724	-6.5%	-50
松坂町	467	441	367	331	269	-42.4%	-198
岡ノ町	378	345	305	287	269	-28.8%	-109
合計	5,200	4,735	4,387	4,064	3,613	-30.5%	-1,587

■ まちなかエリアの町丁目別の人口変化（平成12～令和2年）



■ 居住者の5年前の住所



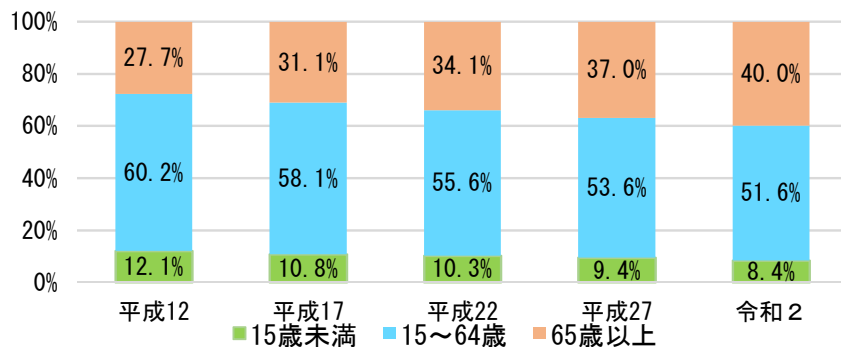
出典：総務省「国勢調査」を基に作成

5 まちなかエリアの現状

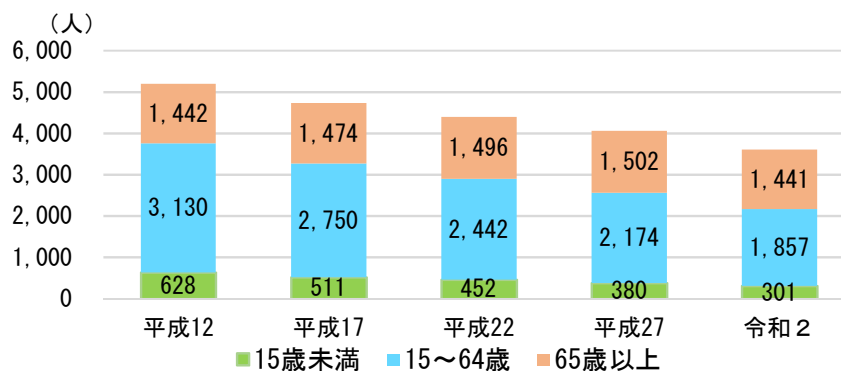
④ 高齢化の状況

- 過去20年間でまちなかエリアの高齢化率は28%から40%に増加し、新町二丁目は概ね2人に1人が高齢者（高齢化率：49%）。
- 過去20年間で15～64歳人口は4割減、15歳未満人口は半減。
⇒ 高齢者が暮らし続けられると同時に若い世代が住みたいと思うまちづくりも重要。

■ まちなかエリアの年齢別の人口割合の推移



■ まちなかエリアの年齢別の人口の推移



■ まちなかエリアの高齢化率の推移

町丁・字等	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2	令2-平12
本町	24.7%	29.0%	30.1%	39.1%	35.0%	10.3
仲町	35.6%	39.3%	43.0%	42.9%	43.6%	8.0
上町	29.4%	31.9%	36.1%	41.5%	43.1%	13.7
五番町	29.8%	30.8%	37.2%	43.1%	46.8%	17.0
新町一丁目	26.4%	31.1%	35.8%	37.7%	41.7%	15.2
新町二丁目	33.3%	37.4%	38.7%	39.6%	48.5%	15.2
穀町	32.1%	32.1%	34.8%	36.9%	40.9%	8.9
駅前	22.9%	28.3%	31.7%	34.4%	38.1%	15.2
番田	19.3%	24.9%	25.2%	27.2%	31.8%	12.6
寿町	22.4%	27.9%	30.9%	32.7%	33.0%	10.7
松坂町	30.4%	30.8%	31.6%	36.3%	44.2%	13.8
岡ノ町	28.6%	33.0%	36.7%	40.4%	40.9%	12.3
合計	27.7%	31.1%	34.1%	37.0%	39.9%	12.2

出典：総務省「国勢調査」を基に作成

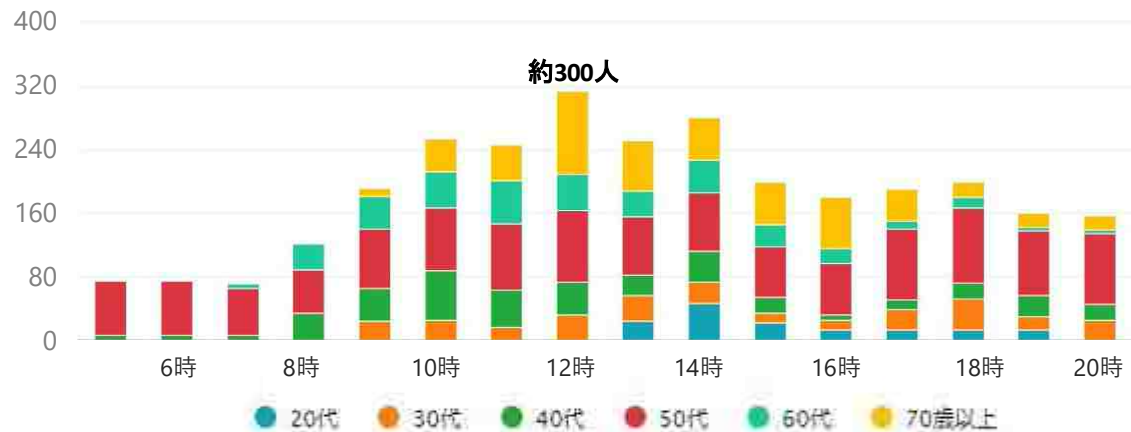
- 携帯電話位置情報では、加茂川周辺には、平日は10時から12時頃に約300人の滞在者が観測され、休日は10時から14時頃に250～300人程度の滞在者が観測された

■ 滞在人口のR5年10月の一日平均(平日・休日)

通常時(平日)



通常時(休日)

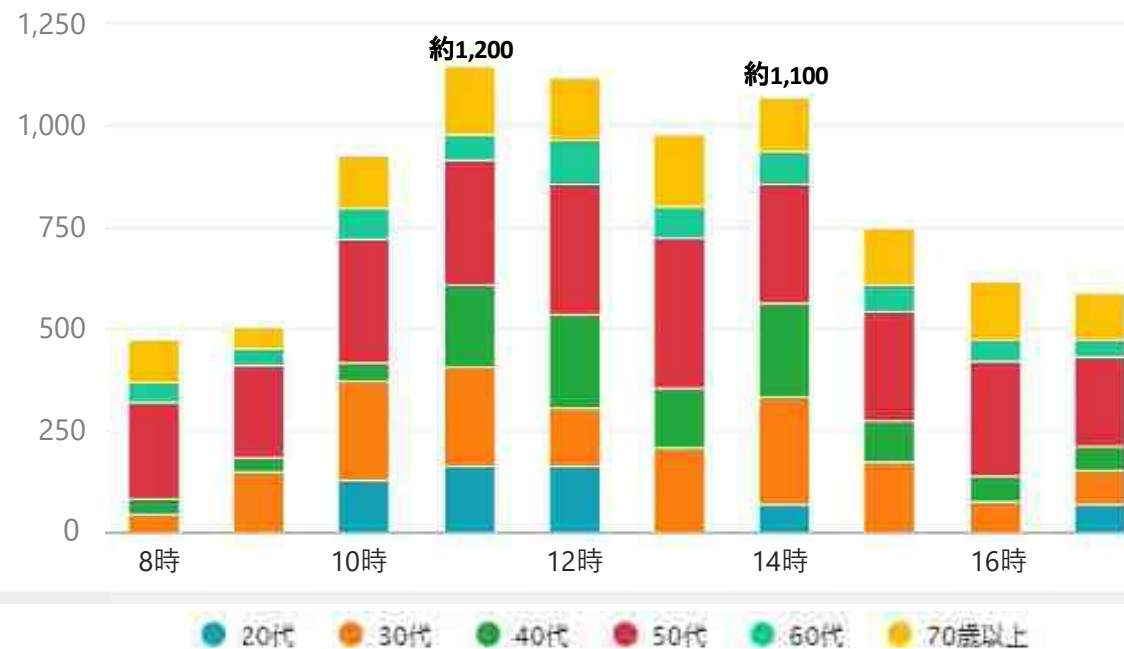


データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

- 携帯電話位置情報では、**11時から14時台で1日平均約1,200人の滞在者が観測され、参加者層としては、50代が最も多く、その他の世代も一定数観測された**

■加茂川を泳ぐ鯉のぼり（5/3～5）の滞在人口



◆5/3～5/5のキッチンカー売上

飲食: 40万円／1日

※キッチンカー3台の合計
 ※提供メニューは焼きそば、
 かき氷、から揚げ、
 クレープなど

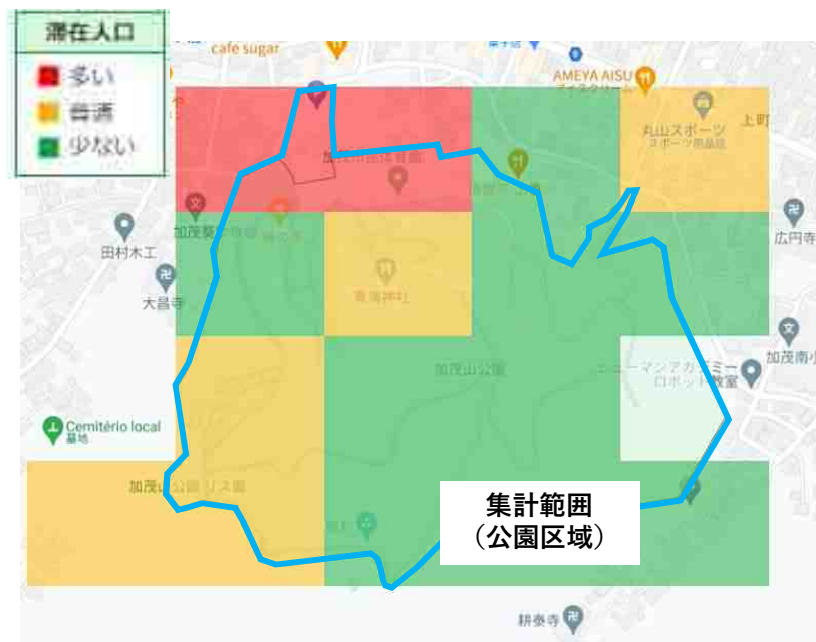
物販: 12万円／1日

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

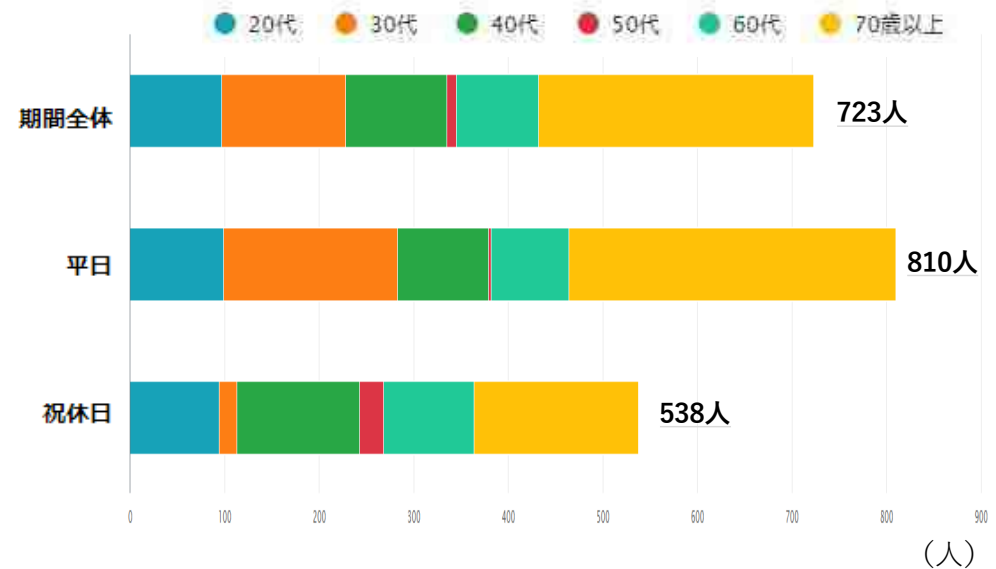
※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

- 令和5年10月では、**1日利用者は720人／日前後**で平日に比べ**休日の利用者が少ない**
- 加茂市体育館周辺～青海神社・リス園が滞在の中心で、**年齢別では約半数が60代以上**

■加茂山公園の滞在人口（令和5年10月の1か月）



■加茂山公園の年齢別滞在人口（日平均）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

- 第57回雪椿まつり期間（4月2日～5月7日）の通行者は、商店街（県道加茂停車場線）を經由したルート、公園駐車場を經由したルートが多い（駅前路線の通行者は少ない）
- 期間中の通行者は、**イベント等が開催される祝休日が多い**

■加茂山公園周辺の通行人口（令和5年4月2日～5月7日、徒歩）



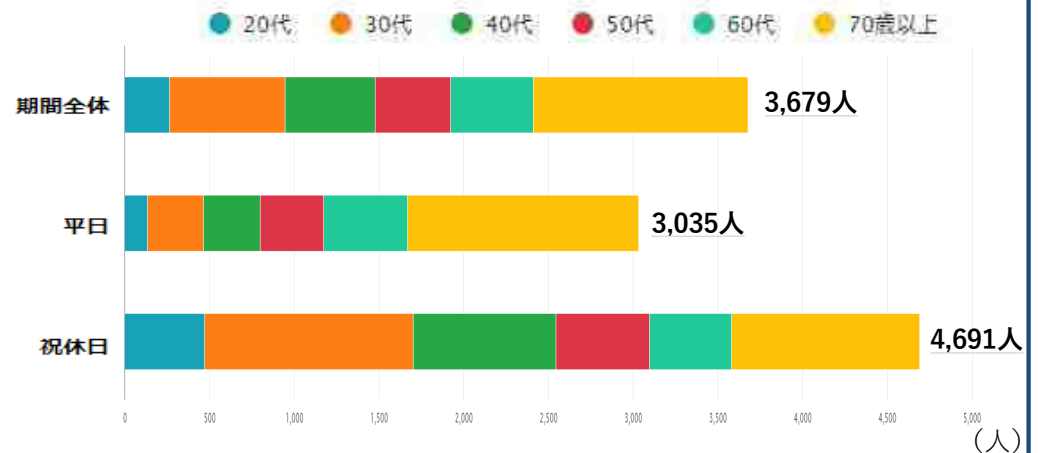
P：公共駐車場

■加茂山公園周辺の通行人口（令和5年4月2日～5月7日、期間全体、徒歩）

居住者	勤務者	来街者	合計
163人 (4.4%)	24人 (0.6%)	3,492人 (95.0%)	3,679人

「居住者」：直近1か月の夜間（22～29時）の最頻滞在地が集計範囲の人
 「勤務者」：直近1か月の昼間（8～19時）の最頻滞在地が集計範囲の人
 「来街者」：上記以外の人

■加茂山公園周辺の年齢別通行人口（令和5年4月2日～5月7日、徒歩、日平均）



データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

6 まちなかエリアの 現状・課題に関するWGでの意見交換結果

商店街の人の目線でのイメージ

- 商店街の人にとっては暮らしがメイン。
- 暮らし:観光割合=7:3~8:2のイメージ。
- 昔は本当に便利なまちで、今でも、値段を気にしなければ大体のものが揃うのではないか。
- 市民は商店街に対し、観光のイメージは抱いていない印象。
- 空き店舗でも住居として利用されている建物が多い。
- 加茂の人が「観光客はそんなに多くなくていい」というのを耳にしたことがある

西加茂など加茂市民の目線でのイメージ

- 西加茂住民の視点の商店街は、暮らしというよりは交通の要衝、飲みや遊びに来る場所のイメージ。
- 「暮らし色」か「観光色」かのどちらかではなく、駅周辺と駅から離れたところでは違うのではないか(グラデーションのような色分けではないか)。
- 加茂ナイトバザールの際、21台もキッチンカーが来たのにも関わらず長蛇の列で、売切れも出ており、潜在需要の現れではないか。

商店街が直面している問題点・課題

- 日常生活における需要に対し、商店街や駅前エリアにおける供給が不足していると思う
- 例えば、お惣菜やトイレトペーパーなどの日用品を買えるところが少ない。
- 人口が減って近所のお客さんが少なくなったこと、店主が高齢になったことの両方が背景にある。
- 商店街の人も、商店街以外の店舗(郊外のチェーン店等)で買い物
- 高齢者の方を除けば、買い物客は少ない。
- イベント客が商店街の客になっていない。
- 飲食店と日用品を販売している店舗では、イベントの効果が異なる。
- 加茂市商店街では、空き店舗が増加し、10年後にはさらに増加すると想定される。
- その中で商店街を「暮らし」の支えとする必要が本当にあるのか、投資する必要があるのか(商店街を残す必要性があるのか)
- 家族に借金を残さずお店を畳むという「最高の終焉」を迎えたいというお考えの方もいる。
- これから頑張りたいという方々だけを集めて特区のようなものを作り、そこだけでお店を残すという考え方も可能ではないか。
- 創業件数が減ってきており、外から人を呼び込むことが課題
- 空き家対策や事業継承、創業の支援が課題
- 商店街の中に色々な機能があることが必要

6 まちなかエリアの 現状・課題に関するWGでの意見交換結果

商店街の可能性(ポテンシャル)

- 夕方でも送迎等による車の混雑がなく、子どもと一緒に安心して歩くことができ、穏やかに時間がゆったり流れていると感じる。
- 加茂での暮らしを整えることで、住んでいる人が笑顔で楽しく暮らしているのを外の人が見に来るといことはありうる。
- 日常をしっかり整えてあげることが、地域の魅力となる。
- 日用品の買い物など生活利便性や季節のイベントごとも含めて、地元の人々の生活をよりよいものとし、その結果として、住んでいる人の日常を魅力資源として、観光につなげるという考え方もある。

②水（加茂川）

- 上河川空間がハレの日にはしか使われないのはもったいなく、日常の賑わい創出にも使えると良い。
- 加茂川は、天気の良い日は加茂川に、飼い犬と一緒に出かけたいくなるような場所
- まちなかエリア(加茂川・加茂山含む)は、家族連れが週末にちょっと出かけるような観光のイメージ。
- 加茂山や加茂川などの公共空間をどのように有効活用するのは重要
- 加茂川から加茂山公園へ人の流れをどのようにつなげていくかが重要

②みどり（加茂山）

②まちなかエリア全体・まちなかエリア外との関係

- 西加茂からまちなかエリアに人が流れるだけでもだいぶ違う。
- 昔から、南北のつながりを意識して橋を架けてきたことから、加茂川を挟んだ南北方向は分断されていない
- 自転車や徒歩移動の場合、西加茂とまちなかエリアをつなぐ動線がなく、現状では、子どもや女性が夜に歩くには怖い。
- 高校生は、駅から橋を渡って移動しており、南北川が境界になっていないのはよいと思う

7 エリアの課題

商店街

- ・加茂駅を利用する若者（高校生等）は多いものの、まちなかを素通りしている
- ・既存の賑わいは商店街を軸とした単調な動線となっており、回遊空間としての奥行に欠ける
- ・空き店舗・空き地の増加、店舗の住宅への転換により商店街らしさが弱まる
- ・イベントが定期的に行われ、一定の集客も見せているがエリアの活性化につながっていない

暮らし

- ・エリアの人口減少、高齢化が同時に進行している
- ・日常生活に密着した店舗などエリアの暮らしを支える機能が弱まっている

交通

- ・鉄道で市街地が分断されており、東西の市街地の連携がなされていない
- ・西加茂～エリアを連絡する安全・安心な通行環境が不足
- ・公共駐車場は、イベント等のピーク時は不足しており、平常時も子ども連れ家族にとって使いにくい

水・緑 オープン スペース

- ・加茂川や加茂山公園はイベントなどで活用されているが、日常的な賑わいに活かされていない
- ・加茂川～商店街～加茂山公園の人の流れを生み出す動線や仕掛けが不足している

歴史文化

- ・蔵や町屋建築、旧庄屋建築、谷通りなど趣のある通りが残っているが交流・回遊資源としての活用が不十分
- ・活用されない歴史文化資源は次代に継承できなくなるおそれ

8 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

WG検討での検討事項

エリアの目指す姿について、より深く検討するため、課題を踏まえて、空間としての3つのゾーンと、それらを結ぶ「つながり」の4つの検討テーマを設定

エリアの課題

空間としての3つのゾーンと、それらを結ぶ「つながり」

まち
(商店街)

みず
(加茂川)

みどり
(加茂山)

つながり

WGでの
検討内容


4つの検討テーマごとに、取組選択や優先順位設定の「基準」となるような「具体的なイメージ/ポイント」を検討

実現のための取組
(令和6年度検討)

8 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

まち（商店街）について

WGでの議論

<p>具体イメージ／ポイントに関する議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 近隣地区住民がふらっと行きたくなる商店街になると良い。 • 多世代向けの色々な居場所があると、賑わいが生まれる。 • 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主とのコミュニケーション」である。 • 生活者のニーズに対応できるよう店舗や生活サービスを充実させる。また、回遊を生む上では飲食店（食べ歩き）が不足している。郊外のスーパー等との差別化を考える必要がある。 • 空き店舗が有効に利用され、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝が進むような仕組みが重要でる。 • 商店街全体が加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」になると良い。 • 具体的な取組としては商店街全体を「道の駅」とすることが有効である。市外の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」にしたい。 • 歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、高齢者がバスでアクセスしやすい交通環境をつくることが重要である。
<p>シーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> • まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用して便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 • 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 • 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 • 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 • が買うことができ、市外の友人を連れてきた。 
<p>参考</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街が道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」） • 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 • 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 • 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

8 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みず（加茂川）について

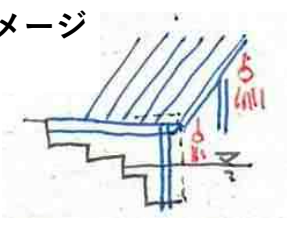
WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、**老若男女、多くの市民が日常的に利用**する空間を目指す。
- **季節感（春夏秋）**を感じることができ、**気軽に繰り返し訪れたくなるリビング**のようなを目指す。
- **多様な利用ニーズを共存**させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をする**ゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす**。
- 滞在する上で、**夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須**ある（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。
- 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で**飲食を楽しめる場を提供**する。
- やすらぎ堤や**川床（小京都のイメージ）**を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。
- **オールシーズン型**のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。
▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。
- **ルールを守ることを前提**に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。



■川床イメージ



シーン

- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。
- スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。
- 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。
- 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。


参考

- 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。
⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。
- 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。
- 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。
【38ページ、40ページ参照】
- 現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

8 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みどり（加茂山）について

WGでの議論

<p>具体イメージ／ポイントに関する議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山公園の特徴は、まちなかにありながら自然の真っ只中にいるような環境であり、自然を前面に打ち出すことが有効である。子どもたちが遊びながら自然を学ぶことができるようではどうか（プレーパーク等）。 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。 加茂山は身近な里山的な存在であり、まちなかにこのような「癒し」のエリアがあるのは売りになる。 「癒し」の要素は、神秘、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。 加茂山公園には、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力、潤いを感じられる場所である。 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのか案内等情報が不足している。各施設への案内や誘導路を充実するほか、総合的にホスピタリティを高める必要がある。 青梅神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる静かな賑わいが生まれるとよい。 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、景観的に優れているので、もっと活かすことが重要である。 	
<p>シーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。 	
<p>参考</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況があるため、市民の利用を促進する必要がある。 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況になる。 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。 	

8 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

つながりについて

WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- ・ **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメント**をつくることが重要。
- ・ 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- ・ 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- ・ 一部区間（加茂山⇄商店街⇄加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える。**
- ・ 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- ・ 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えるとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- ・ まちの美化清掃活用や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- ・ 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。

シーン

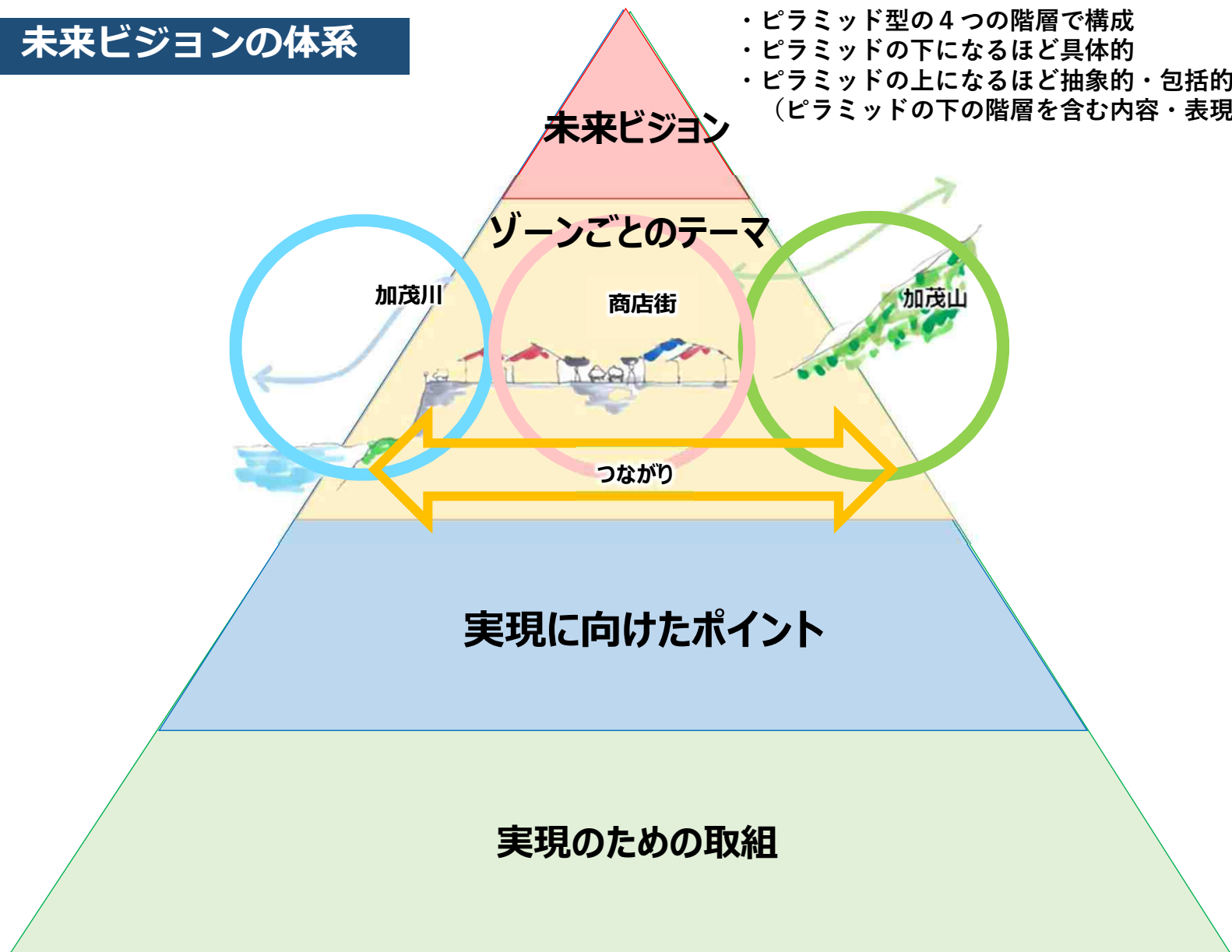
- ・ 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。
- ・ 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- ・ 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇄まち（商店街）⇄みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- ・ 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。

参考

- ・ 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。

9 未来ビジョンの再構成(案)

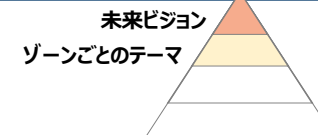
未来ビジョンの体系



包
摂
的
↑
↓
具
体
的

具
体
的

9 未来ビジョンの再構成(案)



【未来ビジョン】 まちまるごと、みちのえき ~日常がとっておきになる~

- ながいきストリートを中心に飲食やお買い物を楽しめるほか、加茂山や加茂川を含めたエリア中に休息や地域の連携、情報発信機能が詰まっている姿から、まちなかエリアをまるごと1つの「みちの駅」として位置づけます。
- 「みちのえき」には、「未知」や「益」という意味も込めています。まだ知らない加茂の魅力があること、新たな人との出会いを秘めていること、商店街やいろんな活動が起こる水辺、悠久の時を感じる神社公園など、たくさんの可能性がの加茂まちなかにつまっていることを含めています。

ゾーン別テーマ

まち(商店街)

ストリート

◆ワンデイ STORE×EAT

人と人との触れ合いの温かみのある商いで、加茂の「いいね！」が詰まった「令和における商店街」の魅力を発信します。飲食店などの気軽に立ち寄りたくなる空間が地域コミュニティの元気の源となり、いつも新鮮なとっておきの日常を贈ります。

みず(加茂川)

◆みな(も)のリビング

水辺の多様な使い方が共存でき、お気に入りの過ごし方がシェアできる「みんなのリビング」として居心地の良さの向上を図るとともに、四季の変化や人との出会い、楽しみの発見がある「水面のステージ」として賑わいと交流が生まれます。

みどり(加茂山)

◆ライフがかいふく うらやまテラス

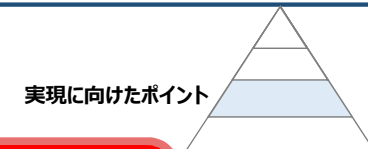
自然と歴史が一体となって風格を感じさせ、まちなかにいることを思わず忘れてしまうような環境を生かし、このまちにおける「おもてなし空間」としての質の向上を図ることで、訪れた人のココロとカラダに潤いをもたらします。

つながり

◆加茂市愛の醸し合い

まち、みず、みどりの魅力を市民が力を合わせて磨き上げ、一体感を醸成するような仕組み/仕掛けづくりを進め、ついお出かけしたくなる、選ばれる場所へと加茂のまちなかを仕立てていくことで、「ひと・もの・ことの好循環」を創出します。

9 未来ビジョンの再構成(案)



ゾーンごとのテーマ

まち(商店街)

ストリート
ワンデイ STORE×EAT

みず(加茂川)

みな(も)のリビング

みどり(加茂山)

ライフがかいふく うらやまテラス

つながり

加茂市愛の醸し合い

実現に向けたポイント

- 加茂のショーケースとなる飲食店や物販店（特産品含む）や暮らしを支える生活サービスの拡充
- 日常的な買い物のしやすさの向上（交通利便性の向上など）
- 広場や公園、子どもたちが安心して遊べる空間など、人がいる日常風景を生み出す居場所づくり（滞在快適性の向上など）
- 人中心の歩きやすいまちづくり（道路空間の使い方の更なる工夫など）

- 四季を通じた訪問目的の充実（鯉のぼりの時期以外におけるイベントの開催や映えスポットになる仕掛けなど）
- 利活用を促す環境の整備（河川敷のしつらえの改善、河川利活用のルールづくりや情報発信など）
- 多様な利用シーンが共存できるような利用エリアの設定（ゾーニング）
- 滞在環境の充実（ベンチ、日よけ、手軽な飲食サービスの提供など）

- おもてなし、おでむかえなどホスピタリティの感じられる景観づくり（ゲート・エントランスとなる道路等の沿道の景観づくり）
- わかりやすい案内サインや情報発信などの充実
- 歴史文化的な環境と調和した憩いや佇み環境の充実
- 生物の多様性や自然体験などの環境学習の場や機会の充実

- まち、みず、みどりをつなぐ仕掛けづくり（商店街⇄加茂川⇄加茂山の間で人の流れを生み出す動線整備、情報発信、イベント開催など）
- おもてなし空間づくり活動の促進（美化清掃、加茂だからこそその風景づくりなど）
- 若者を中心に、チャレンジする場や活躍の機会を提供する仕組みづくり
- まちづくりの新たな担い手を増やす取組の充実

【参考】エリアの将来イメージ

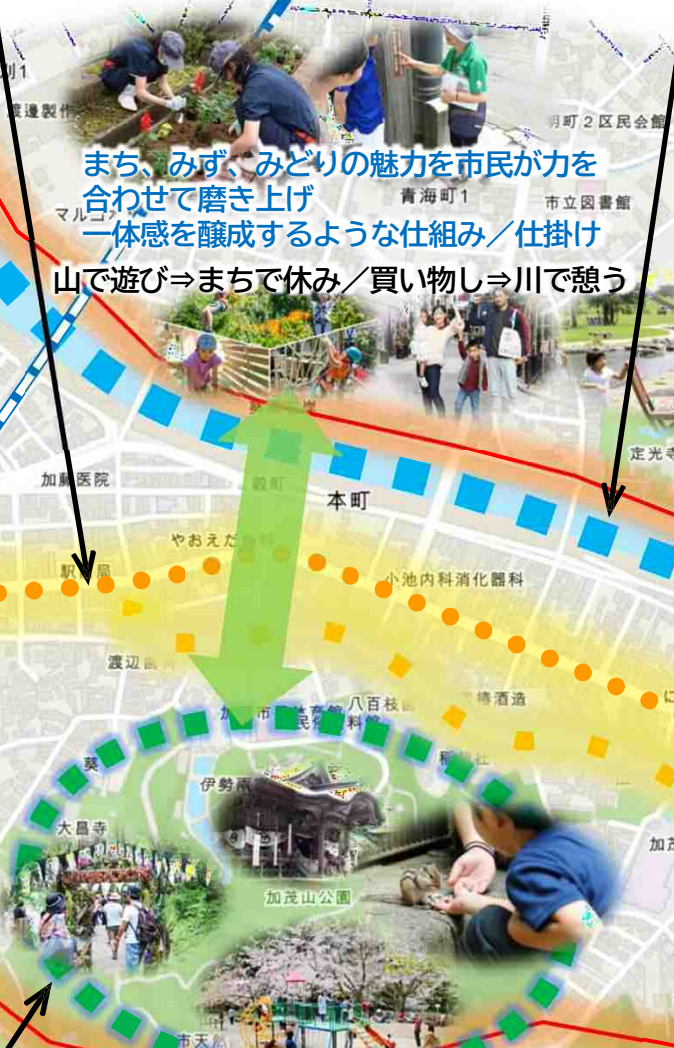
【まち】 ワンデイ STORE×EAT

多世代が気軽に立ち寄れるような「令和における商店街の暮らし」の再構築



【つながり】 加茂市愛の醸し合い

まち、みず、みどりの魅力を市民が力を合わせて磨き上げ
一体感を醸成するような仕組み／仕掛け
山で遊び⇒まちで休み／買い物し⇒川で憩う



【みず】 みな(も)のリビング

水辺の多様な使い方が共存できる滞在環境の向上

四季の変化や人との出会い、楽しみの発見がある交流と賑わいを生む舞台
鯉のぼり



【やま】 ライフがかいふく うらやまテラス

ココロとカラダに潤いをもたらすおもてなし空間としての質の向上



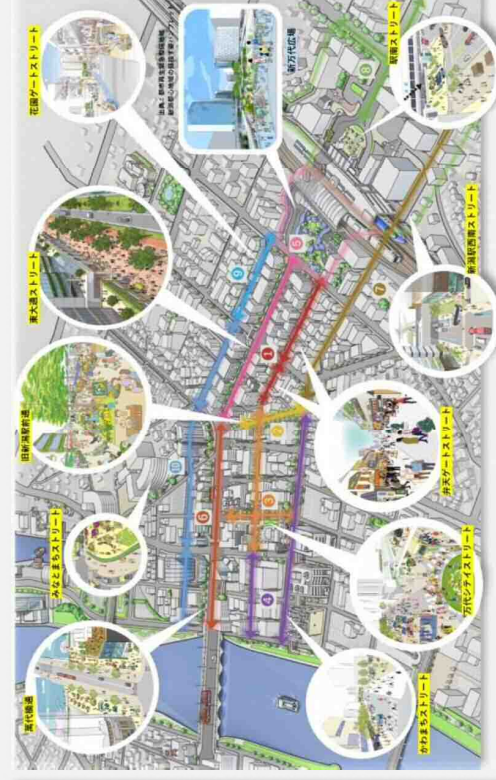
新潟駅・万代地区周辺 エリアプラットフォーム

新潟駅・万代地区周辺将来ビジョンを具現化するため、**エリア関係者で情報と課題を共有するとともに、公民連携のまちづくりを推進し**、新潟駅・万代地区周辺エリアの**新たな魅力と価値を創出**することを目的として、令和5年3月10日に『新潟駅・万代地区周辺エリアプラットフォーム』を設立しました。【会員数：19 オブザーバー：2 アドバイザー：2】

また、エリアプラットフォームでは、将来ビジョンの具現化に向けた具体的な事業を円滑に検討、実施するために、ワーキンググループの設立や運営を支援しています。エリアプラットフォームの構成メンバーやその他の企業・団体の関係者で構成することができます。【WG数：3】



詳細はこちら



【会員】

新潟商工会議所	新潟ビルディング協会
新潟駅前弁天通商店街振興組合	万代シティ商店街振興組合
新潟駅前商工振興会	新潟駅前花園一丁目商工振興会
一般社団法人新潟市南商工振興会	東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社
株式会社新潟日報社	新潟交通株式会社
株式会社新潟三越伊勢丹	株式会社バウハウス
BIPROGY株式会社 新潟支店	エヌシーイー株式会社
株式会社第四北越銀行	株式会社テレビ新潟放送網
株式会社大光銀行	相互技術株式会社
新潟市	

【オブザーバー】

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
国土交通省 北陸地方整備局 建政部 都市・住宅整備課

【アドバイザー】

中村 美香（特定非営利活動法人地域インフラ研究会 副理事長）
萩野 正和（株式会社connel 代表取締役）

拡大・増員



プラットフォーム
構成員（新潟市を含む） + オブザーバー等

拡大・増員



事務局（マネージャー）
新潟市 + 専門業者

